



五  
43

三五 龍海 每石  
清心

寒氣日相加し處

着馬性康為國家子也

年可揚眉之頃梅を食

我之さ内とさ子に授更萬り

西其甚くは穠と信也海

凡相持るを何れとら能

の事とある島田を其の

と書る處を一由志と種傳

年十の頃病をなすは

懐は友の詩有り也

平南の法に種傳と書

竹の子をゆき活の種は

石の先文に病ヨケレバヨキ

トテ余の質トナサレリは因表

者ノ協以存好コト也サレ

得る事ある相の事ある

